

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
国語・現代の国語	1年	2	高等学校 現代の国語 (数研出版)	教科書、準拠ワーク 国語便覧
科目の概要と目標	知識及び技能 ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 思考・判断力・表現力等 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 学びに向かう力、人間性等 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
主な評価方法	定期考査 レポート 小テスト	定期考査 レポート 提出課題	提出課題 授業中の行動観察

学期	単元	学習内容及び評価基準
1	対比の構造 一般論と主張 論理とレトリック 実用の文章1～4	・論理的ということ 文章の論理展開を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って具体的に考えようとしている。(c) ・水の東西 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。(b) ・ポスト・プライバシー 筆者の考えを参考にしながら実社会の状況や問題点を粘り強く考察し、学習課題に沿って説明しようとしている。(c) ・コインは円形か 筆者の意見や【例】を参考にしながら積極的に自分の考えを深め、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。(c) ・コミュニケーションの手段を考える 「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。(b) ・目的に合わせて表現を工夫する 実用的な文章の身近な事例を積極的に調べ、学習課題に沿って適切な形式の文章を用いてまとめようとしている。(c) ・資料を分析して考えをまとめる 課題資料を踏まえて積極的に身近な例を考え、学習課題に沿って具体的にまとめようとしている。(c)

2	具体と抽象 比較する 視野を広げる 実用の文章 5 ～ 6	・根拠の妥当性を説明する 「書くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、根拠の示し方を考えるとともに、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。（b） ・ものとことば 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。（a） 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。（b） ・政治的思考 「読むこと」において、目的に応じて、文章に含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈するとともに、自分の考えを深めている。（b） ・未来をはじめる 「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。（b） 異なる種類の文章を積極的に読み比べて、それぞれの筆者の立場を理解したうえで、学習課題に沿って自分の考えを深めようとしている。（c） ・科学コミュニケーション 「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、自分の考えを明確にするとともに、話の構成を工夫している。（b） 筆者の表現を積極的に読み解いて、その主張を理解したうえで、学習課題に沿って自分の意見を具体的に述べようとしている。（c） ・文章の構成を工夫して提案する 資料等を参考にしながら積極的に自分の考えを深め、表現や構成に工夫を凝らして、学習課題に沿って適切に企画書を作成しようとしている。（c） ・課題を発見し解決策を発表する 課題資料が示す内容と身の回りの問題を積極的に関連付け、学習課題に沿って適切な解決策を考えようとしている。（c）
3	書き言葉の技術 視野を広げる 言語技術の実践	・文章トレーニング 1 ～ 5 文章構造について粘り強く検討し、課題に沿って一貫性のある文章を書こうとしている。（c） ・他者を理解するということ 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。（b） 論理展開を押さえながら筆者の述べている内容を粘り強く読み解き、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。（c） ・レポート 「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にまとめている。（b） 「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。（b） ・プレゼンテーション 「話すこと・聞くこと」において、話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫している。（b） 相手にわかるような発表のしかたについて粘り強く検討し、今までの学習を活かして、多様な観点で表現を工夫しようとしている。（c）

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
国語・言語文化	1年	2	高等学校 言語文化 (数研出版)	教科書、準拠ワーク 国語便覧
科目の概要と目標	知識及び技能 ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 思考・判断力・表現力等 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 学びに向かう力、人間性等 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
主な評価方法	定期考査 レポート 小テスト	定期考査 レポート 提出課題	提出課題 授業中の行動観察

学期	単元	学習内容及び評価基準
1	古文の世界を楽しむ	・児のそら寝（宇治拾遺物語） 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。登場人物の行動や心情を説明する。（a）
	日本語の中に生きる漢文	・検非違使忠明 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。（b）
	故事と成語	・入門一・二 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。（a）
	受け継がれる古文	・漁夫之利（戦国策）、矛盾（韓非子） 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。（b）
	現代にも生きる教え	・羅生門 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。（b）
	和歌による心の交	・丹波に出雲といふ所あり（徒然草） 上人の失敗の原因に結びつく記述を本文から粘り強く探し出し、今までの学習を生かして話し合いに参加しようとしている。（c）
		・芥川（伊勢物語）

2	流	・探究の扉 在原業平中将の女、鬼に噉らはるる語（今昔物語集） 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。（b） 粘り強く『伊勢物語』と『今昔物語集』の違いを抽出し、学習課題に沿って文章表現についての話し合いに参加しようとしている。（c） ・東下り（伊勢物語） 粘り強く地の文と和歌の関係性を読み解き、今までの学習を生かして本文全体を解釈しようとしている。（c）
	読み継がれる歴史	・管鮑之交・先従隗始・鶏口牛後（十八史略） 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。（b）
	平安宮廷文学の世界	・雪のいと高う降りたるを（枕草子） ・探究の扉 香炉峰下、新ト山居、草堂初成、偶題東壁（白氏文集） 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。（a） 粘り強く『枕草子』と『白氏文集』の主題の違いを考え、今までの学習を生かして話し合いに参加しようとしている。（c）
	受け継がれる漢文	・山月記 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。作品の設定を捉えて、その作品設定による効果について考える。作品の内容を踏まえて、主人公のその後を想像し、自分の考えを文章にまとめる。（a）
	漢詩のことば	・漢詩 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。（b）
3	論説の文章	・雑説 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。（a） 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。（b）
	論語とその注釈	・論語 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。（b）
	仮名日記文学の原点	・門出（土佐日記） 本文と関連する古典常識について調べる。（a） 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。（b） ・帰京（土佐日記） 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。（b） 結びの一文に込められた作者の意図について粘り強く考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。（c）

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
地歴・地理総合	1年	2	地理総合 世界に学び地域へつなぐ 新詳高等地図	CONNECT地理総合(第一) 地理総合ワークブック(二宮)
科目の概要と目標	・地図や地理情報システムなどを用いて様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる。 ・地理的事象を多面的・多角的に考察し、地理的課題の解決に向けて構想する。 ・我が国および他国の国土や歴史、文化を尊重することの大切さについて自覚する。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	世界の生活文化の多様性を理解し、地図や地理情報システム等を用い様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる。	地理的事象相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、地理的課題の解決に向け構想・議論する。	よりよい社会の実現を視野に、地理に関わる諸事象で見られる課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。
主な評価方法	定期考査 レポート 小テスト	定期考査 レポート 提出課題	提出課題

学期	単 元	学 習 内 容 及 び 評 価 基 準
1	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 1節 地球上の位置と時差 2節 地図の役割と種類 第2章 結び付きを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界	第1部-第1章 回帰線と極圏の違いを理解している。(a) 日付変更線が置かれた理由を説明できる。(b) 射水市のハザードマップをもとに住民や勤務にきている人々の避難先を確保する施策を提案する。(c) 第1部-第2章 領海・接続水域・EEZの違いを理解している。(a) 歴史総合と関連付けながらグローバル化を説明できる。(b) グローバル化のメリット・デメリットを考察する。(b)
2	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活 3節 世界の言語・宗教と人々の生活 4節 歴史的背景と人々の生活 5節 世界の産業と人々の生活 第2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球的環境問題 3節 資源・エネルギー問題 4節 人口問題 5節 食糧問題 6節 都市・居住問題	第2部-第1章 大地形と小地形の違いを理解している。(a) 雨温図・ハイサーグラフをもとに気候区を判別できる。(a) オセアニア・東アジアの生活文化を説明できる。(b) イスラーム・ヒンドゥーの生活文化を説明できる。(b) 歴史総合と関連付けながらヨーロッパとアフリカ・アメリカ大陸の近代化の歩みを説明できる。(b) 日本への移民を増やしたときのメリット・デメリットを考察し、人口減少への対策を提案する。(c) 第2部-第2章 南北問題と南南問題の違いを理解している。(a) 海洋汚染の解決に自分ができることを提案する。(c) 日本の再生可能エネルギーの課題を説明できる。(b) 人口ピラミッドの推移を説明できる。(b) 食品ロスを減らすために自分ができることを提案する。(c) ニュータウンのメリット・デメリットを考察する。(b) 感染症拡大に備えた産業構造について考察する。(b)
3	第3部 持続可能な地球づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災 3節 火山災害と防災 4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備え 第2章 生活圏の調査と地域の展望 1節 生活圏の調査と地域の展望	第3部-第1章 ヒートアイランド現象を説明できる。(b) 海溝型地震と直下型地震の違いを理解している。(a) プレートと火山前線のことを説明できる。(b) 外水氾濫と内水氾濫の違いを理解している。(a) 自分ができる共助を提案する。(c) 第3部-第2章 地震や洪水を想定した防災行動計画を立てる。(c)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
地歴・歴史総合	1年	2	明解 歴史総合 (帝国書院)	新詳 歴史総合(浜島書店) ゼミナール歴史総合(浜島書店) 郷土史補助教材「ふるさと富山」
科目の概要と目標	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉え、資料を活用しながら歴史の学び方を修得し、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察、構想する科目である。グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価する。	各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価する。	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。
主な評価方法	定期考査 ワークシート 小テスト	定期考査 ワークシート 小テスト	ワークシート 探究学習課題

学期	単 元	学 習 内 容 及 び 評 価 基 準
1	1部 歴史の扉 ・歴史と私たち ・歴史の特質資料に触れる ・歴史叙述とは何か 2部 近代化と私たち ①近代化への問い ②江戸時代の日本と結び付く世界 ③欧米諸国における近代化 ④近代化の進展と国民国家形成 ⑤アジア諸国の動揺と日本の開国 ⑥近代化が進む日本と東アジア ⑦現代的な諸課題と結び付けて考えよう！	【第1部について】 歴史資料の読解や歴史叙述の意義について説明できる。(b) 【第2部①～⑥について】 近代化の経緯について正しく理解できる。(a) 近代化の経緯について史資料を活用して自分の言葉で説明できる。(b) 【第2部⑦について】 諸課題に対して知識や史資料を用いて自分なりの解決策を表現できる。(c)
2	第3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち ①国際秩序の変化や大衆化への問い ②第一次世界大戦と日本の対応 ③国際協調と大衆社会の広がり ④日本の行方と第二次世界大戦 ⑤再出発する世界と日本 ⑥現代的な諸課題と結び付けて考えよう！	【第3部①～⑤について】 国際秩序の変化や大衆化について正しく理解できる。(a) 国際秩序の変化や大衆化について史資料を活用して自分の言葉で説明できる。(b) 【第3部⑥について】 これまで学んできた知識や史資料を活用しながら自分なりの見解を表現できる。(c)
3	第4部 グローバル化と私たち ①グローバル化への問い ②冷戦で揺れる世界と日本 ③多極化する世界 ④グローバル化の中の世界と日本 ⑤現代的な諸課題と結び付けて考えよう！	【第4部①～④について】 グローバル化について正しく理解できる。(a) グローバル化における諸問題について史資料を活用して自分の言葉で説明できる。(b) 【第4部⑤について】 自ら設定した問いに対してこれまで身に付けた知識を活用して探究学習に取り組むことができる。(c)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
公民・公共	2年	2	新版公共（数研出版）	ニュービジョン公共（浜島書店） スタディーノート公共（数研出版）
科目の概要と目標	人間と社会のあり方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
主な評価方法	定期考査 授業振り返りシート 小テスト	定期考査 授業振り返りシート 提出課題	テーマ別レポート提出

学期	単 元	学 習 内 容 及 び 評 価 基 準
1	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚 第3節 日本人としての自覚 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代の思想 第2節 現代の諸課題と倫理 第3章 公共的な空間における基本原理 第1節 民主社会の基本原理 第2節 日本社会の基本原理	・青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解できている。(a) ・自己形成の課題について考察し、社会の一員としての自覚を深め、自分の生き方を選択し、自己実現をめざしている。(c) ・先哲の思想や宗教が自分自身の生き方に与えている影響について気付くことができている。(b) ・古代・中世・近世・近代の日本の思想家の思想内容が理解できている。(a) ・近世・近代・現代の世界の思想家の思想内容をもとに、自らを成長させる人間としての在り方生き方が考察できている。(b) ・地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展など、現代の諸課題を主体的に追究できている。(c) ・法などの社会規範の役割が理解でき、日常生活と関連づけて考察できている。(a) ・日本国憲法で保障されている権利がどのように具体的事件に適用されているのかを調べ、その保障と他者の権利や公共の利益との調和について考察できている。(b) ・国際情勢の変化にともない、日本の平和主義のあり方がどう変化していったのか考察できている。(b)
2	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義 第1節 日本の政治機構 第2節 政治参加と民主政治の課題 第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第1節 経済のしくみと市場機構 第2節 財政と金融 第3節 日本経済の発展と変化 第4節 豊かな生活と福祉の実現	・日本国憲法に見られる三権相互の関係とそれぞれの役割が理解できている。(a) ・行政機能拡大の是非について主体的に考察できている。(b) ・議会の見学や住民運動・消費者運動など、身近に自ら参加できる機会を発見し、主権者として参加しようという意欲を持つことができている。 ・日本の政治について課題を発見し、見通しが持てている。(b) ・市場経済のメカニズムが理解できている。(a) ・現代の資本主義経済でケインズ主義の有効な部分と改善すべき部分が判断できている。(b) ・消費税や所得税などの税金の使途に関心が持てている。(c) ・産業構造の変化と職業選択との関係や、中小企業や農業の果たす役割と現状を理解できている。(a) ・雇用・労働問題や社会保障・福祉の課題について主体的に追究できている。(c)
3	第6章 国際社会の動向と日本の役割 第1節 国際政治の動向 第2節 国際政治の役割と日本の役割 第3節 国際経済の動向と国際協力 第7章 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	・国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割が理解できている。(a) ・冷戦の成立とその終結後の国際政治の流れが理解できている。(a) ・国際問題について自分なりの意見を持ち、他者に説明できている。(b) ・地域経済統合が進んでいる世界の現状が理解できている。(a) ・円高などの為替相場の変動が経済にどのような影響を与えるのか考察できている。(b) ・発展途上国の貧困・飢餓や国際社会における日本の役割について関心が持てている。(c) ・現代社会の諸問題を多角的・多面的に考察し、その内容をレポートや口頭発表などによつて的確に表現できている。(b)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
数学 I	1 年	2	高等学校 数学 I (数研出版)	チャート式 解法と演習 数学 I +A (数研出版) 4プロセス 数学 I +A (数研出版)
科目の概要と目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	各単元の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数式化して表現・処理する技能を身につけている。	数や式を適切に変形する力、図形の性質や計量を論理的に考察し表現する力、データを適切に分析しようとする態度を養う。	数学を活用し、粘り強く考えて判断しようとする態度、問題解決の過程を評価・改善しようとする態度を養う。
主な評価方法	定期考査 提出課題 課題テスト 小テスト ノート	定期考査 提出課題 課題テスト 小テスト	提出課題 ノート ワークシート 授業中の行動観察

学期	単 元	学 習 内 容 及 び 評 価 基 準
1	第1章 数と式 第1節 式の計算	- 式を適宜変形し、展開の公式や因数分解の公式が適用できる。(a) - 複雑な式についても、組合せや整理をして計算することができる。(b) - 展開と因数分解の関係に着目し、因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。(c)
	第2節 実数	- 根号を含む式の計算ができる。分母の有理化ができる。(a) - 根号を含む式の計算について、一般化して考えられる。(b) - 対称式の求め方に興味を示し、自ら考察しようとする。(c)
	第3節 1次不等式	1次・連立不等式、絶対値方程式・不等式を解くことができる。(a) - 身近な問題を1次不等式に帰着させ問題を解決することができる。(b) - 不等式と等式における解を比較して考察しようとする。(c)
	第2章 集合と命題	- 必要条件、命題の逆などの意味を理解している。(a) - 命題に応じて対偶や背理法を利用し、証明することができる。(b)
	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化	- 平方完成をしてグラフをかくことができる。(a) - 平行移動を、頂点の移動に着目して考察することができる。(b) - 平行移動や対称移動の一般公式を考察しようとする。(c) 2次関数の最大値・最小値を求めることができる。(a) - 定義域や軸が変化することの最大値・最小値を考察することができる。(b)
	課題学習	
	第3節 2次方程式と2次不等式	- 判別式の符号と実数解の個数の関係を理解している。(a) - グラフとx軸の共有点の座標、個数を求めることができる。(a) 2次関数の値の符号と2次不等式の解を関連させることができる。(b) 2次不等式を解くときに、図を積極的に利用する。(c)
2	第4章 図形と計量 第1節 三角比	- 三角比の相互関係を利用して値を求めることができる。(a) - 鈍角に拡張して考察することができる。(b) - 図を積極的に利用することができる。(c)
	第2節 三角形への応用	- 公式を用いて三角形を解くことができる。(a) - 空間図形への応用において、適当な三角形に着目して考察する。(b) - 日常の事象や社会の事象などに活用しようとする。(c)
	第5章 データの分析	平均値、中央値、四分位範囲、分散などの定義や意味を理解しもとめることができる。(a)
	課題学習	複数のデータを適切な手法を選択して分析し、問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。(b)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
理科・物理基礎	1年	2	新編 物理基礎 (数研出版)	ステップアップノート 物理基礎(啓林館)
科目の概要と目標	・中学校で学んだ基本的概念を発展させ、運動とエネルギー、熱、波、電気、物理学と社会の各分野について学習する。 ・物理の基本的概念や原理・法則を理解し、自然観を育成する。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	単位の仕組みを理解し、正しく物理量を取り扱うことができる。物理の基本的な理論を理解し計算できる。	物理的な考え方を理解し、物理量を文字で表現しその関係を式で表すことができる。	提出物や週末課題に積極的に取り組み、自主的に課題を見つけながら取り組むことができる。
主な評価方法	定期考査 実験レポート 小テスト	定期考査 実験レポート 提出課題	提出課題 実験レポート

学期	単 元	学 習 内 容 及 び 評 価 基 準
1	第1編 運動とエネルギー	・物体の運動と力の関係を正しく把握する。(a) ・運動の3法則の中でも、特に運動方程式の考え方と利用方法を習得する。剛体における力のつり合いの条件式を立て、方程式を解くことができる。(a)(b) ・仕事とエネルギーの概念を十分に理解し、仕事とエネルギーを関連づけて定量的な計算ができる。(a)(c) ・力学的エネルギー保存則について理解する。その利用方法を習得し正確に数値計算を行うことができる。(a)(b)
2	第2編 熱 第3編 波	・熱と温度の違いを把握し、熱量保存則を正しく利用できる。(a) ・いろいろなエネルギーの変換と効率について理解する。(a)(c) ・波の基本的な概念を確実に理解する。日常で見られる波の現象が何かを確認し、横波と縦波の違い、2つの波が重なったときに起こる現象について理解する。波の変位が、時間と位置の2つの変数で決定されることに留意する。(a)(b) ・音が、これまで学んだ波としての諸性質を示すこと、弦や気柱の振動などの諸現象を理解する。(a)(b)(c)
3	第4編 電気 第5編 物理学と社会	・電気の性質や電流と電気抵抗、エネルギーに関わる基本的な原理や法則について理解する。(a) ・磁場と交流を学ぶことによって、発電の仕組み等を理解する。併せて、電磁波の学習から通信の原理を理解する。(a)(b) ・エネルギーの移り変わりや資源、発電との関連性を理解する。(a) ・摩擦力のコントロールの仕方やエネルギーの有効利用について理解する。(a)(b)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
理科・化学基礎	2年 文系	2	化学基礎 (数研出版)	—
科目の概要と目標	・日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、化学的に探究する能力と態度を育て、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	日常生活の中で利用されている物質に関する基本的な知識を得るとともに原子分子に関する概念を理解する。	原子分子の質量と数量の関係を理解し、身近な化学反応の仕組みと科学的な見方を理解し応用することができる。	提出物や週末課題に積極的に取り組み、自主的に課題を見つけながら取り組むことができる。
主な評価方法	定期考査 実験レポート 小テスト	定期考査 実験レポート 提出課題	提出課題

学期	単元	学習内容及び評価基準
1	第1章 物質の構成と化学結合 物質の構成 物質の構成粒子	- 物質は純物質と混合物とに分類できることを理解する。(a) - 混合物から純物質を得る分離・精製には種々の方法があることを理解する。(a) - 物質には固体・液体・気体の状態があることを確認し、相互の変化は熱の出入りによる粒子の熱運動が元になっていることを理解する。(b) - 熱運動がなくなる温度を0度とする、絶対温度に関する定義を学ぶ。(a) - 物質は種々の元素から構成されていること、元素は元素記号で表されることを理解する。構成する元素の種類によって物質が単体と化合物に分類されること、同じ元素からなる単体には性質が異なる同素体をもつものがあることを併せて理解する。(b)(c)
2	粒子の結合 イオン結合 共有結合と分子間力 金属結合 第2章 物質の変化 物質質量と化学反応式	- 物質を構成する基礎的な粒子である原子と、原子や原子から生じるイオン種々の方法で結合した物質について、その構造や表し方、それらの関係を学ぶ。(a) - 原子の質量は極めて小さいため、原子量という概念によって異なる元素の原子の相対的な質量が比較し易くなること、原子量を元に分子量や式量が定義されていることを学ぶ。(a) - 物質質量(モル)の概念を理解する。(b) - 溶液の濃度について、パーセント濃度やモル濃度の定義を学び、扱いに慣れる。(b)(c) - 化学反応式の係数と物質質量との関係について理解する。(b)(c)
3	酸と塩基の反応 酸化還元反応	- 酸と塩基の反応が水素イオンの授受により統一的に説明できることを理解する。(a) - 水はごく一部が電離していること、水溶液の酸性や塩基性の程度をpHを用いて比較できることを理解する。(a) - 電子の授受に注目し、酸化数を用いて酸化還元の程度を判断することができる。(b) - 代表的な酸化剤と還元剤について、その作用や用途について学ぶ。(a)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
理科・化学基礎	2年 理情系	2	化学基礎 (数研出版)	自作プリント他
科目の概要と目標	・日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、化学的に探究する能力と態度を育て、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価 の 観点	日常生活の中で利用されている物質に関する基本的な知識を得るとともに原子分子に関する概念を理解する。	原子分子の質量と数量の関係を理解し、身近な化学反応の仕組みと科学的な見方を理解し応用することができる。	提出物や週末課題に積極的に取り組み、自主的に課題を見つけながら取り組むことができる。
主な 評価 方法	定期考査 実験レポート 小テスト	定期考査 実験レポート 提出課題	提出課題

学期	単 元	学 習 内 容 及 び 評 価 基 準
1	第1編 第1章	- 物質が純物質と混合物とに分類できること、混合物から純物質を分離・精製するには種々の方法があることを理解している。(a) - 物質が種々の元素から構成されていること、同じ元素からなる単体には同素体をもつものがあることを理解している。(a) - 純物質と混合物の違い、単体と化合物の違いを説明できる。(b)
	第1編 第2章	- 物質の三つの状態と熱運動の関係を理解している。(a) - 身の周りの混合物を構成している純物質に興味を持つ。(c) - 原子の構造や原子を構成する粒子について知る。(a) - 原子や単原子イオンの電子配置を示すことができる。(a) - イオン化エネルギーや電子親和力の大小からイオンへのなり易さを考えられる。(b) - 周期表上の元素の配列について興味をもつ。(c)
	第1編 第3章	- イオン結合・共有結合・金属結合の特徴を理解している。(a) - 結合の特徴から結晶の性質を予想できる。(b) - 分子の極性の有無を、分子の形や電気陰性度を元に説明できる。(b)
	第2編 第1章	- 原子量・分子量・式量・モル質量の定義を示すことができる。(a) - 実際の物質の量を物質量で表すことができる。(a) - モル質量やモル体積の概念を用いて粒子の数・質量・気体の体積と物質量に関する計算ができる。(b) - 質量パーセント濃度とモル濃度の定義を理解している。(a) - 多数の粒子をまとめて扱うのに物質量という概念が便利だということに気付く。(c)
2	第2編 第2章	- 化学反応における量的な関係を化学反応式から読み取ることができる。(a) - 化学反応を正しく化学反応式で表すことができる。(b) - 化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。(b) - 原子説や分子説の発見にいたる物質探究の歴史に興味を持つ。(c) - 酸や塩基の価数、電離度などの定義を理解している。(a) - アレニウスやブレンステッドとローリーの定義を元に、酸と塩基を見極めることができる。(b) - 水素イオン濃度やpHの定義を理解している。(a) - pHの値から酸性(塩基性)の強弱を判断することができる。(b) - 中和反応を化学反応式で表すことができる。(a) - 中和滴定の操作や使用する器具・指示薬について理解している。(a) - 中和反応における量的関係を数式で表すことができる。(b) - 身近な酸や塩基の水溶液の濃度を中和滴定で求められることに気付く。(c)
	第2編 第3章	- 電子の授受に注目して酸化還元反応を説明できることを理解している。(a) - 酸化数を求めることによって酸化還元反応の程度を判断できる。(b) - 酸化還元反応の化学反応式を、酸化剤や還元剤のはたらきを示す反応式を組み合わせることで作ることができる。(b) - 金属の反応性の違いがイオン化傾向により説明できることを知る。(a) - 電池の原理を理解している。(a) - 電池の基本的な仕組みを、イオン化傾向や電子の授受に着目して説明できる。(b) - 身近で利用されている酸化還元反応に興味を持つ。(c)
(3学期より週3単位で化学もしくは情報化学を実施)		

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
理科・生物基礎	1年	2	生物基礎 (数研出版)	リードLightノート生物基礎（数研出版）スクエア最新図説生物（第一学習社）
科目の概要と目標	生物学のミクロレベルからマクロレベルまでの基本的な概念や原理・法則を理解し、日常生活の中にある生物や生物現象への関心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。
主な評価方法	定期考査 実験レポート	定期考査 実験レポート 提出課題	提出課題 実験レポート

学期	単元	学習内容及び評価基準
1	第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝 3. 呼吸と光合成 第2章 遺伝子とそのはたらき 1. 遺伝情報とDNA 2. 遺伝情報の複製と分配 3. 遺伝情報の発現	・現存する多様な生物には共通性があり、その共通性は共通の起源をもつことに由来することがわかる。(a) ・原核細胞と真核細胞の違いについて、それらの細胞に含まれる細胞小器官の違いとともに理解している。(a) ・呼吸や光合成からエネルギーを得る方法を、関連づけて考察し、それを表現できる。(b) ・代謝の反応が行われるときに、酵素がどのように関与しているのか説明できる。(b) ・さまざまな生命現象にはタンパク質が関わっており、それらタンパク質がDNAの遺伝情報に基づいて合成されることを理解している。(a) ・DNAの遺伝情報に基づいてタンパク質が合成される過程を体系的に考察し、表現できる。(b) ・分化した細胞では、細胞ごとに異なる遺伝子が発現していることを理解する。(a)
2	第3章 ヒトの体内環境の維持 1. 体内での情報伝達と調節 2. 体内環境の維持のしくみ 3. 免疫のはたらき	・体内環境が一定の範囲に保たれることとその意味を理解している。(a) ・外界の環境が変化しても、体内環境は一定の範囲に保たれていることを理解しようとする。(c) ・病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解している。(a)
3	第4章 生物の多様性と生態系 1. 植生と遷移 2. 植生の分布とバイオーム 3. 生態系と生物の多様性 4. 生態系のバランスと保全	・植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解する。(a) ・遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し、説明できる。(b) ・世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解する。(a) ・生態系のバランスと生物多様性を保全することの重要性がわかる。(a) ・植生の遷移が、光環境や土壌の変化によってどのように進むかを説明できる。(b) ・生態系のバランスや生態系の保全することが重要であることを理解しようとし、認識している。(c) ・生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。(c)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
保健体育・体育	1年	3	現代高等保健体育 (大修館書店)	ステップアップ高校スポーツ 2025 現代高等保健体育ノート
科目の概要と目標	各種の運動の合理的・計画的な実践を通して運動の技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体調を整え体力の向上を図り、公正・協力・責任・参画などの態度を育て、生涯を通じて豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの技能を身に付けている。	運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断することができる。	競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、自己の責任を果たすなどの態度を身に付けている。
主な評価方法	レポート 実技テスト	活動シート 映像による動作分析 実技テスト	提出課題 授業中の行動観察

学期	単 元	学 習 内 容 及 び 評 価 基 準
1	体づくり運動	・体育施設の使い方や1年次の授業の内容・進め方を知る。(a) ・集団の中で規律ある行動をとる態度を養う。(c) ・体育大会に備え、ラジオ体操や行進練習を通して、集団で協力しながら自己の役割を考えて参加する意識を高める。(b) ・体づくり運動は、年間を通し適切な時期に、時数として10時間を確保し実施する。(a) ・ランニングや体ほぐし・体づくり運動を中心に体力の向上を図り、運動やスポーツの必要性を理解する。(a)
	陸上競技Ⅰ	・学校周辺のランニングコースを走り、自分に妥協しない強い精神力を養う。(c) ・走運動を通して瞬発力や持久力を養い、記録の向上に努める。(a) ・「おわら」を通じて豊かな表現力を身につける。(a) ・基本的なパスの技術を身に付け、相手コートに正確に入れられるようにする。(a) ・グローブ、ボール、バット等の用具の扱いに慣れ、ボールが打てるようになる。(a)
	ダンス：「おわら」 球技ⅠA 男子：バレーボール 女子：ソフトボール	
	体育理論	・スポーツの文化的 content とオリンピックを理解する。(a)
2	体づくり運動	・長距離走及び体ほぐしや体づくりを中心に、休暇中に低下した体力の早期回復を図る。(a) ・ドリブルやパスなどの基本的なボール操作を身につけ、タイミング良くシュートを打つ。(a)
	球技ⅠB 男子：サッカー 女子：バレーボール	・基本的なパスの技術を身に付け、相手コートに正確に入れられるようにする。(a) ・球技では、ルールと審判法を理解してゲームを楽しむ。(a)(c) ・器械運動Ⅰでは、マット運動を取り扱い、基本的な技を習得する。(a) ・選択種目のルールを理解するとともに、基礎となる技能、技術や基本動作を習得する。(a)
	選択Ⅰ 男子：器械運動または 武道	・武道Ⅰでは、相手を尊重し礼儀を重んじる姿勢を身につける。(c) ・ダンスⅠでは、創作ダンスを取り扱い作品を発表する。グループごとに表現したいテーマを考えイメージにあった動きの探求をする。(b)
	女子：ダンス	
3	体育理論	・スポーツが経済に及ぼす影響を理解する。(a)
	体づくり運動	・体ほぐしや体づくりを中心に、休暇中に低下した体力の早期回復を図る。(a) ・基礎、基本の技術を習得し、連携プレイでゲームが進められるようにする。(a) ・役割に応じたシャトルの操作や安定したラケットの操作を習得する。(b) ・ルールと審判法を理解してゲームを楽しむ。(c)
	球技ⅠC ・バスケットボール (バドミントンと卓球は 経験種目として実施)	
	体育理論	・ドーピングとスポーツ倫理について学ぶ。(a)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
保健体育・体育	2年	2	現代高等保健体育 (大修館書店)	ステップアップ高校スポーツ 2024 現代高等保健体育ノート
科目の概要と目標	各種の運動の合理的・計画的な実践を通して運動の技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体調を整え体力の向上を図り、公正・協力・責任・参画などの態度を育て、生涯を通じて豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの技能を身に付けている。	運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断することができる。	競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、自己の責任を果たすなどの態度を身に付けている。
主な評価方法	レポート 実技テスト	活動シート 映像による動作分析 実技テスト	提出課題 授業中の行動観察

学期	単元	学習内容及び評価基準
1	体づくり運動	2年次の授業の内容・進め方を知る。(a) - 集団の中で規律ある行動をとる態度を養う。(c) - 体育大会に備え、ラジオ体操や行進練習を通して、集団で協力しながら自己の役割を考え行動する意識を高める。(b) - 体づくり運動は、年間を通し適切な時期に、時数として10時間を確保し実施する。(a) - ランニングや体ほぐし・体づくり運動を中心に体力の向上を図り、運動やスポーツの必要性を理解する。(a) - 学校周辺のランニングコースを走り、自分に妥協しない強い精神力を養う。(c) - 走運動を通して瞬発力や持久力を養い、記録の向上に努める。(a) - 哀切感に満ちた旋律に合わせて表現する(a) - 球技における基本的な技術を身に付け、攻撃と守備のフォーメーションを理解する。(a)
	陸上競技Ⅱ ダンス：「おわら」 球技ⅡA 男子：サッカー 女子：バレーボール 体育理論	
2	体づくり運動	- 技術と技能の違いや技能の発揮の仕方について理解する。(b) - 技能がどのようなステップを経て上達するか理解する。(a) - 体ほぐしや体づくりを中心に、休暇中に低下した体力の早期回復を図る。(a) - 状況に応じたボール操作と連携した動きによる攻防を展開することができるようになる。(b) - 器械運動Ⅱではマット運動を取り扱い、いくつかの技を組み合わせ滑らかに行うことができる。(a) - 選択種目におけるルールと審判法を理解し、試合運営を含めてゲームを楽しむ。(b)(c) - 武道では、多様な動きに応じた基本動作から得意技を用いて相手の構えを崩し仕掛けたり応じたりするなどの攻防を展開する。(b) - ダンスにおいては、ダンスを創作する過程で個や群を利用し、作品を創り発表する。(b) - スポーツの技術と体力の関係について学ぶ。(a) - 目的に応じたトレーニング方法を学ぶ。(a) - 技能と体力の関係について理解する。(a) - 目的に応じた様々なトレーニングの方法を理解する。(a)
	球技ⅡA 選択Ⅱ 男子：器械運動 または武道 女子：ダンス 体育理論	
3	体づくり運動	- 体ほぐし、体づくりを中心にを行い、休暇中に低下した体力の早期回復を図る。(a) - ルールと審判法を理解してゲームを楽しむ。(a)(c) - 状況に応じたボール操作と連携した動きによる攻防を展開することができるようになる。(b) - スポーツや運動を安全に行うことができる環境について理解する。(a)
	球技ⅡB バスケットボール 体育理論	

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
保健体育・体育	3年	2	現代高等保健体育 (大修館書店)	ステップアップ高校スポーツ 2023 現代高等保健体育ノート
科目の概要と目標	各種の運動の合理的・計画的な実践を通して運動の技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体調を整え体力の向上を図り、公正・協力・責任・参画などの態度を育て、生涯を通じて豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの技能を身に付けている。	運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断することができる。	競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、自己の責任を果たすなどの態度を身に付ける。
主な評価方法	レポート 実技テスト	活動シート 映像による動作分析 実技テスト	提出課題 授業中の行動観察

学期	単 元	学習内容及び評価基準
1	体づくり運動	・3年次の授業の内容・進め方を知る。(a) ・集団の中で規律ある行動をとる態度を養う。(c) ・体育大会に備え、ラジオ体操や行進練習を通して、集団で協力しながら自己の役割を考え行動する意識を高める。(b) ・体づくり運動は、年間を通し適切な時期に、時数として10時間を確保し実施する。(a) ・ランニングや体ほぐし・体づくり運動を中心に体力の向上を図り、運動やスポーツの必要性を理解する。(a) ・学校周辺のランニングコースを走り、自分に妥協しない強い精神力を養う。(c) ・走運動を通して瞬発力や持久力を養い、記録の向上に努める。(a) ・哀切感に満ちた旋律に合わせて表現する。(a)
	陸上競技Ⅲ	
	ダンス：「おわら」	
	選択ⅢA 男女共修 ・バレーボール ・サッカー ・テニス ・ソフトボール	
2・3	体育理論	・ライフスポーツに応じたスポーツについて学ぶ。(a)
	体づくり運動	・体ほぐしや体づくりを中心に、休暇中に低下した体力の早期回復を図る。(a)
	選択ⅢA	・選択種目の連携プレーや戦略について学ぶ。(a) ・選択種目の個人やチームに必要な技能を高めるための練習方法を模索し実践してみる。(b) ・選択種目で勝てるチームにするために、自己が果たす役割を考えて行動する。(c)
	選択ⅢB 男女共修 ・バスケットボール ・サッカー ・卓球 ・バドミントン	※選択ⅢAに準ずる
	体育理論	・スポーツを推進する取り組みについて学ぶ。(a) ・豊かなスポーツライフの創造について学ぶ。(a)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
保健体育・保健	1年	1	現代高等保健体育 (大修館書店)	現代高等保健体育ノート (大修館書店)
科目の概要と目標	時代の流れの中で、健康自体のとらえ方や健康のために人や社会に望まれることも変化してきている。そのことをとらえ、現代の健康問題や新しい時代の健康のあり方などについて学習する。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	健康についての社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断することができる。	生涯を通して自身の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、活力ある生活を営む態度を養う。
主な評価方法	定期考査 提出課題	定期考査 提出課題	提出課題 授業ノート 授業中の行動観察

学期	単元	学習内容及び評価基準
1	現代社会と健康	・我が国の死亡率、受療率、平均寿命、健康寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通して国民の健康課題について理解する。(a) ・がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などを適宜取り上げ、これらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて理解する。(a) ・喫煙、飲酒、薬物乱用が人体や周囲の人々へ与える影響について理解し、喫煙、飲酒、薬物乱用の対策について個人と社会に分けて例をあげて説明する。(b)
2	現代社会と健康	・精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、認知、情動、行動などの不調により、精神活動が不全になった状態であることについて理解する。また、うつ病、統合失調症、不安症、摂食障害などは誰もが罹患しうること、若年で発症する疾患が多いこと、適切な対処により回復し生活の質の向上が可能であることについて理解する。(a) ・感染症は、時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られること、その際、交通網の発達により短時間で広がりやすくなっていること、また、新たな病原体の出現、感染症に対する社会の意識の変化等によって、新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られることについて理解する。また、感染症のリスクを軽減し予防するには、衛生的な環境の整備や検疫、正しい情報の発信、予防接種の普及など社会的な対策とともにそれらを前提とした個人の取組が必要であること、エイズ及び性感染症についても、その原因及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について理解する。(a) ・健康を保持増進するために、ヘルスプロモーションの考え方にに基づき、適切な意思決定や行動選択により、疾病等のリスクを軽減することを含め、自らの健康を適切に管理することが必要であるとともに、環境づくりが重要であることについて理解する。(b)(c)
3	安全な社会生活	・事故は、地域、職場、家庭、学校など様々な場面において発生していること、事故の発生には、周りの状況の把握及び判断、行動や心理などの人的要因、気象条件、施設・設備、車両、法令、制度、情報体制などの環境要因などが関連していることについて理解する。(a) ・適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることについて理解する。(a) ・自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには、一人ひとりが適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに、自ら進んで行う態度が必要であることを理解する。また、日常生活で起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることを、実習を通して理解し、応急手当ができるようにする。心肺停止状態において、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）の使用が必要であること、及び方法や手順について理解し、AEDなどを用いて心肺蘇生法ができる。(b)(c)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
保健体育・保健	2年	1	現代高等保健体育 (大修館書店)	現代高等保健体育ノート
科目の概要と目標	時代の流れの中で、健康自体のとらえ方や健康のために人や社会に望まれることも変化してきている。そのことをとらえ、現代の健康問題や新しい時代の健康のあり方などについて学習する。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	健康についての社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断することができる。	生涯を通して自身の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、活力ある生活を営む態度を、身に付けている。
主な評価方法	定期考査 提出課題	定期考査 提出課題	提出課題 授業ノート 授業中の行動観察

学期	単元	学習内容及び評価基準
1	生涯を通じる健康	・各ライフステージの健康課題を理解する。(a) ・思春期における心身の発達や健康問題について理解する。(b) ・男女の性意識について理解し、性情報への適切な対処について学ぶ。(b) ・受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について理解する。(a) ・家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響について理解する。(a) ・心身の発達と結婚生活の関係を理解し、結婚生活を健康的に送るための必要な考え方や行動を理解する。(b)
2	生涯を通じる健康	・加齢に伴う心身の変化について理解し、中高年期を健やかに過ごすための社会的な取り組みについて学ぶ。(a) ・働くことの意義や目的を理解し、現代の健康課題について考える。(b) ・働く人の健康問題の変化と労働災害の予防について理解する。(b) ・職場の健康増進対策について学ぶ。また、余暇の大切さと活用の仕方について考える。(a)(b)
	健康を支える環境づくり	・大気汚染の原因とその健康影響について学ぶ。(a) ・水質汚濁や土壌汚染の原因とその健康への影響について学ぶ。(a) ・環境汚染の特徴を学び、それを防ぐための取り組みについて理解する。(a) ・ごみ処理の現状と課題について学ぶ。(a) ・安全で質の良い水の確保の仕組みと課題について学ぶ。(a)
3	健康を支える環境づくり	・食品の安全対策について学ぶ。また食品の安全のためには、行政・生産者・製造者・消費者にそれぞれの役割があることを理解する。(a) ・食品を衛生的に管理するための行動を理解し、個人の役割について自覚する。(c) ・保健行政の役割と保健サービスの活用について学ぶ。(b) ・医療機関の役割について理解するとともに、医療サービスの適切な活用について学ぶ。(b) ・医薬品の正しい使用法について学び、その安全性を守る取り組みについて理解する。(a) ・民間機関・国際機関などの保健活動や対策について理解する。(a) ・健康の保持増進のための環境づくりについて学ぶ。また、健康づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを理解する。(c)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
芸術・音楽Ⅰ	１年	２	T u t t i +	高校生のための音楽研究ノート
科目の概要と目標	(１)曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (２)自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 (３)主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	・曲想と音楽の構造や文化的歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性などについて理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図を持ったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
主な評価方法	筆記試験 ワークシート	実技試験 演奏 行動観察	自己評価と相対評価 ノート 行動観察

学期	題 材	学 習 内 容 及 び 評 価 基 準
1	・身近な音楽 「校歌」 「少年時代」 「夏の思い出」 ・器楽アンサンブル キーボードアンサンブル 「威風堂々」 ・楽 典 「音名」「音程」 「反復記号」 「調号と臨時記号」	・曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身につけ、歌唱で表す。(a) ・音色、旋律、強弱等を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図を持つ。(b) ・身近な音楽に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。(c) ・曲想と楽器の音色や奏法及び音楽の構造について理解し、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能、他者との調和を意識して演奏する技能を身につけ、器楽で表す。(a) ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図を持つ。(b) ・楽器の奏法を身につけることや楽曲の音楽表現を創意工夫しながらアンサンブル活動することに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組む。(c) ・音楽の特徴と文化的背景を理解し、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わう。(c) ・音名、音程に関する基礎的な知識・法則を理解する。(a) ・音名、音程や各種記号を学習することに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組む。(c)
2	・世界の歌、日本の歌 「Caro mio ben」(伊) 「Heidenröslein」(独) 「Yesterday」(英)	・言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身につけ、歌唱で表す。(a) ・音色、強弱等を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図を持つ。(b)

	「この道」 「ふるさと」 「小さな空」 ・ テーブル・ ミュージック (創作) 「Wind from the south」 ・ 器 楽 (創作) ギター 「Scarborough Fair」 「Country Roads」 「Greensleeves」 トーンチャイム ・ 楽 典 「音階」 「調号と調性」 「音符と休符」	・ 歌詞の内容を理解し、曲にあった発声、フレーズを意識した表現の工夫をすること に興味関心をもち、音楽活動を主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。(c) ・ 音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音型などの特徴及び構成上の特徴 について、表したいイメージと関わらせて理解する。また、創意工夫を生かした創作 表現をするために必要な反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能を 身につけ、創作する。(a) ・ 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの 働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのよ うに演奏するかについて表現意図を持つ。(b) ・ ボディーパーカッションで音色を工夫したり、構成を工夫したりしながら、表現し たいイメージをもって作曲・演奏することに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主 体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。(c) ・ 曲想と楽器の音色や奏法及び音楽の構造について理解し、曲にふさわしい奏法、身 体の使い方などの技能を身につけ、器楽で表す。(a) ・ 音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、変奏や編曲をする技能を身につけ、 創作で表す。(a) ・ 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの 働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのよ うに演奏するかについて表現意図を持つ。(b) ・ 楽器の音色や奏法に関心を持ち、音楽活動を主体的・協働的に器楽の学習活動に取 り組む。(c) ・ 音階、音価に関する基礎的な知識・法則を理解する。(a) ・ 音階や音価を学習することに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的 に学習活動に取り組む。(c)
3	・ 日本の伝統芸能 「篠笛」 ・ 楽 典 「和音」	・ 曲想と楽器の音色や奏法及び音楽の構造、文化的・歴史的背景との関わりについて 理解し、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身につけ、器楽で表す。 (a) ・ 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの 働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのよ うに演奏するかについて表現意図を持つ。(b) ・ 篠笛の音色や奏法の特徴、様々な日本の伝統芸能に興味関心をもち、主体的・協働 的に器楽や鑑賞の学習活動に取り組む。(c) ・ 和音に関する基礎的な知識・法則を理解する。(a) ・ 和音を学習することに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習 活動に取り組む。(c)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
芸術・美術Ⅰ	1年	2	高校生の美術Ⅰ（日文）	—
科目の概要と目標	美術の学習を通して、感性や表現する力を高めるとともに、美術を愛好する心情を養う。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	学習を通して造形的な見方ができる。 色彩構成の考え方を深めることができる。	発想や構想を働かせ表現活動を行うことができる。	美術を愛好する心情や豊かな感性を育み、学習に主体的に取り組めるように工夫する。
主な評価方法	作品制作 色彩の構成	作品制作 発想力	レポート

学期	単元	学習内容及び評価基準
1	絵画 「油彩による静物画」	- 鉛筆で画面構成して正しく構図を決めることができる。(a) - モチーフの配置を工夫しながら、空間と奥行きを感じさせる構図を考えることができる。(a)(b) - 油絵の具の基本的な使い方を理解し対象の材質感を表現することができる。(a)(b) - 油絵の混色、重色の効果を考えながら計画的に制作を進めることができる。(b) - 他の生徒の作品を鑑賞し、作者の心情、考えを読みとることができる。(c)
2	絵画 「油絵による自由表現」	- 対象や表現の構成を工夫しながら、自分の表現方法を空間と奥行きを画面に表現して構図することができる。(a)(b) - 油絵の具の基本的な使い方を理解し材質感を表現することができる。(a)(c) - 油絵の混色、重色の効果を考えながら計画的に制作を進めることができる。(b)(c) - 主題の表現にふさわしい用具や表現方法を見つけ出し工夫することができる。(b) - 意図や条件に応じた自由な発想を主体的に行い、独自の表現ができる。(b)
3	デザイン 「椅子のデザイン」	- 美しいものにはある一定の美的秩序があることに気づくことができる。(a) - デザインの法則（バランス・ハーモニー・シンメトリーなど）を理解して、オリジナルの形や椅子のデザインすることができる。(b) 形、作り、柔らかいを工夫しながら自分のイメージする椅子のデザインをすることができる。(b) - 他の生徒の作品を鑑賞し、どのようなデザインが美的秩序により構成されているか発見・理解することができる。(b)(c)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
芸術・書道Ⅰ	1年	2	書道Ⅰ（東京図書）	—
科目の概要と目標	書道の幅広い活動を通して、書写能力を基盤とし、さらに芸術としての多様な書の美しさを鑑賞によって理解する。 その美しさを表現するための基礎的な力を身につける。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	- 書の実現方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 - 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の実現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
主な評価方法	提出作品 ワークシート 確認プリント	提出作品 ワークシート 確認プリント	提出作品 ワークシート 確認プリント 授業中の行動観察

学期	単 元	学 習 内 容 及 び 評 価 基 準
1	書の実を求めて 楷書の学習 篆刻の学習	- 書の分野や用具・用材について理解し、表現のための学習方法を把握する。(a)(c) - 毛筆の基本的な用筆法を学ぶ。(a) - 古くから名筆とされてきた作品を鑑賞し、表現の多様性を理解し、それぞれの特徴をとらえて書くことができる。(a)(b) - 篆刻が芸術作品として鑑賞の対象となる書の実現のひとつであることを理解する。(a)(b)(c) - 姓名印の制作を通して篆刻の手順と技法を理解する。(a)(b) - 篆刻の刻法を学ぶ。(a) - 篆刻における押印法を身に付け、落款法を知る。(a)(b) - 書の実現方法の一つとして創作し、立体性を学ぶ。(a)(b)(c)
2	行書の学習 隷書の学習 仮名の書の学習	- 行書の特徴を知り、行書が芸術の書、実用の書の両方で広く用いられていることを理解する。(a)(c) - 行書の用筆法に慣れ、変化と調和のバランスを学ぶ。(a)(b) - 隷書の特徴を理解し、技法を学ぶ。装飾性のある隷書が日常において目に触れる機会があることを知る。(a) - 仮名の歴史、小筆の扱い方、用筆法などを理解する。(a) - 平仮名、変体仮名に関心を持ち、連綿による流動美を理解する。(a)(b) - 名筆を臨書することによって日本の伝統的な書の実を感じるができる。(a)(b)
3	漢字仮名交じりの書の学習	- 自分の感性で受け止めた詩文などを題材に楽しく表現することができる。(a)(b) - 漢字と仮名の調和の重要性を確認し、そのための工夫について考えることができる。(b) - 明確な制作意図を持って、主体的・意欲的に創作活動を行う。(c)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
外国語・英語コミュニケーションⅠ	1年	3	ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATIONⅠ	—
科目の概要と目標	「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、日常的・社会的な話題について、必要な情報や話し手の意図を把握し、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝えることができる能力を養う。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	- 文法事項を用いた文の形・意味・用法を理解している。 - 自分の考えや気持ちを伝える技能を身につけている。	情報や自分の考えなどをわかりやすく伝えている。	情報や自分の考えなどをわかりやすく伝えようとしている。
主な評価方法	定期考査 小テスト（単語テスト） Activity原稿内容評価（表現・文法）	定期考査 提出課題 Activity原稿内容評価	提出課題 Activity発表(スピーチ)評価

学期	単 元	学 習 内 容 及 び 評 価 基 準
1	Unit 1	- 学校新聞の記事などを通して、1秒間に世界で起こっていることについて学ぶ。受け身/不定詞/動名詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。(a) - 情報や自分の考えなどを聞き手にわかりやすく話して伝えることができる。(b) - 上記のように伝えようとしている。(c)
	Unit 2	- 機内誌の記事などを通して、さまざまな国や地域で信じられている迷信について学ぶ。助動詞+受け身/現在完了進行形を用いた文の形・意味・用法を理解している。(a) - 迷信や信念について、読み手を意識して要点や具体例を書き、発表することができる。(b) - 上記のように書こうとしている。(c)
	Unit 3	- Eメールのやり取りなどから、ゼロ・ウェイスト政策について学ぶ。分詞の形容詞用法/関係代名詞（省略の形を含む）を用いた文の形・意味・用法を理解している。(a) - 環境保全について、英文を読み取り発表することができる。(b) - 上記のように伝えたり書いたりしようとしている。(c)
2	Unit 4	- 博物館のパンフレットなどから、ハワイ語やハワイ文化の歴史について学ぶ。現在完了形受け身/過去完了形を用いた文の形・意味・用法を理解している。(a) - 身の回りの文化についてわかりやすく発表することができる。(b) - 上記のように伝えようとしている。(c)
	Unit 5	- ウェブの記事などから、自分が体験したことを聞き手に語る際の秘訣を学ぶ。SVOC [分詞/関係副詞how/助動詞の過去形を用いた文の形・意味・用法を理解している。(a) - 身の回りの出来事についてわかりやすく発表することができる。(b) - 上記のように伝えようとしている。(c)
	Unit 6	- オンライン百科事典の伝記などから優れたリーダーシップをもつ人物の経歴を学ぶ。分詞構文/関係副詞where[when/why]を用いた文の形・意味・用法を理解している。(a) - ある人物についての情報をもとに自分の考えを書き、発表することができる。(b) - 上記のように書こうとしている。(c)
3	Unit 7	- 英字新聞の記事などから、今住んでいる場所を選んだ理由やそこでの暮らしの魅力について学ぶ。原形不定詞/仮定法過去完了/過去完了進行形を用いた文の形・意味・用法を理解している。(a) - 将来住みたい場所について理由や具体例とともに自分の考えを書くことができる。(b) - 上記のように書こうとしている。(c)
	Unit 8	- ウェブの記事などを通して、世界中のさまざまな成人の儀式について学ぶ。関係代名詞/what/関係代名詞の非制限用法を用いた文の形・意味・用法を理解している。(a) - 外国の高校生の日常生活についての情報をもとに、自分の生活について書き、発表することができる。(b) - 上記のように伝えようとしている。(c)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
家庭・家庭基礎	2年	2	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)	とやまの高校生ライフプランガイド (富山県教育委員会)
科目の概要と目標	自立した生活者として必要な基礎的知識と技能を身につけ、生涯を見通して家庭や地域及び社会における課題の解決を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的態度を育てる。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	家族・家庭や福祉、衣食住、消費生活・環境などに関する基礎的な知識と技能を身につけている。	生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決に向けて実践、考察し、論理的に表現する力を身につけている。	生活に関心をもち、家族や地域・社会との共生を目指して、生活の充実向上を図るために実践している。
主な評価方法	定期考査 実習 作品製作	定期考査 ワークシート レポート課題 発表	ワークシート レポート課題

学期	単 元	学 習 内 容 及 び 評 価 基 準
1	生涯を見通す	生涯発達の視点から今の自分を客観的に見つめ青年期の自立について考えることができる。(b)
	人生をつくる	多様な生き方や働き方について理解している。(a) 家族・家庭に関する法律を理解している。(a)
	子どもと共に育つ (名札製作)	子どもの心身の発達や生活について関心をもち、親や保育者の役割を理解している。(a) 現代の子育て環境の課題と、子育て支援の必要性について考えることができる。(b) 子どもの発達段階を考え、保育園訪問の名札をデザインし製作することができる。(b) 保育園訪問に目的意識を持って参加し、子ども達と触れ合うことができる。(b)
	(保育園実習) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	(夏休み課題)自分の生活の中から課題を見つけ、解決方法を考え計画を立てて実践し、まとめることができる。(b)(c)
2	食生活をつくる	ホームプロジェクトをわかりやすく発表することができる。(b) 食習慣と健康の関わりや食の安全について理解し、食生活の問題点について考えることができる。(b) 栄養素の働きや食品の栄養的特質を理解し、バランスのよい食事計画ができる。(a) 調理法の要点と基本的な調理技術を身につけている。(a)
	衣生活をつくる	被服の多様な機能と役割を理解している。(a) 被服表示を参考に被服材料の性能や加工、被服管理について科学的に理解している。(a)
	住生活をつくる	住空間の計画や健康的で安全な住環境について理解している。(a)
3	経済活動を営む	経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解している。(a) 契約や消費者問題について理解し、責任ある消費行動について考えることができる。(b) 環境負荷の少ない生活について考えることができる。(b)
	超高齢社会を生きる 共に生き、共に支える これからの生活を創造する	高齢者の心身の変化や高齢期を支える社会のしくみと課題について理解している。(a) 生活を支える福祉について理解し、社会の一員としての関わり方を考えることができる。(b) これまでの学習を活かし生活設計を立てることができる。(b)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
情報・情報Ⅰ	1年	2	高校情報Ⅰ Python (実教出版)	高校情報Ⅰ Python 学習ノート (実教出版) ほか
科目の概要と目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質能力を育成する。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	情報と情報技術についての知識と技能、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法についての知識と技能を身に付けるとともに、情報社会と人との関わりについては、情報に関する法規や制度及びマナー、個人が果たす役割や責任等について、情報と情報技術の理解と併せて身に付ける。	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、さまざまな事象を情報とその結び付きの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力を養うとともに、問題を発見・解決する各段階で情報と情報技術を活用する過程を振り返り改善することで、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。	情報と情報技術を適切に活用することを通して、法規や制度及びマナーを守ろうとする態度、情報セキュリティを確保しようとする態度などの情報モラルを養い、これらを踏まえて情報と情報技術を活用することで情報社会に主体的に参画する態度を養う。
主な評価方法	定期考査 実習レポート 小テスト	定期考査 実験レポート 提出課題	提出課題

学期	単 元	学 習 内 容 及 び 評 価 基 準
1	オリエンテーション (一人一台端末、教育用クラウド、ネットワーク等の利用)	本校での学習に必要な説明や初期設定等を行う。
	情報と情報社会 問題解決の考え方 法規による安全対策 個人情報とその扱い 知的財産権の概要と産業財産権 著作権 コミュニケーションとメディア 情報デザインと表現の工夫 Webページと情報デザイン アルゴリズムとプログラミング プログラミングの基本	表現メディア、伝達メディア、記録メディアの特性を理解している。(a) 問題や問題解決の意味、問題解決の基本的な手順について理解している。(a) 不正アクセス禁止法や個人情報保護法などの法規について理解している。(a) オプトイン、オプトアウトについて説明することができる。(b) 著作権と産業財産権における権利の取得の違いを説明できる。(b) 著作物の利用に関し、著作権を侵害しないように取り組んでいる。(c) 誤解を招く表現の他の例をあげて説明することができる。(b) 情報デザインの意味について理解している。(a) 意図したデザインにするためのHTMLタグやCSSセレクタを適切に選択できる。(a) 構文エラー、実行時エラー、論理エラーの違いについて説明することができる。(b) プログラムにおける変数の役割について理解している。(a)
2	デジタル情報の特徴 数値と文字の表現	表現できる情報の数およびその単位について理解している。(a) 2進数、10進数、16進数をそれぞれ相互に変換する方法を理解している。(a) 組み合わせ回路の真理値表を適切に表現できる。(b) 標準化周期や標準化周波数を音質とデータ量に関連付けて説明することができる。(b)
	演算の仕組み 音の表現 画像の表現 コンピュータの構成と動作 コンピュータの性能	加法混色、減法混色、解像度、階調について理解している。(a) CPUの動作と演算の仕組みについて理解している。(a)
	ネットワークとプロトコル インターネットの仕組み Webページの閲覧とメールの送受信 情報システム	2進数による小数の表現によって誤差が生じることを理解している。(a) クライアントとサーバの関係を理解している。(a) ルータの役割について理解し、説明することができる。(b) 電子メールの仕組みについて、データの流れを追いながら説明できる。(a)
	情報システムを支えるデータベース データベースの仕組み 個人による安全対策	身の回りの情報システムについて簡単にその機能を説明することができる。(a) オープンデータをダウンロードして分析する実習に意欲的に取り組んでいる。(c) 結合、選択、射影を理解している。(a)

	安全のための情報技術 配列 関数	コンピュータウイルスに感染した時の適切な対処法を判断できる。(b) パリティビットに1または0のどちらの値を設定したらよいかを判断できる。(b) 複数の添字を使って多重ループによる処理を正しく理解している。(a) 関数の定義と呼び出す方法について理解している。(a)
3	データの収集と整理 ソフトウェアを利用したデータの 処理 統計量とデータの尺度 時系列分析と回帰分析 モデル化とシミュレーション 探索のプログラム 整列のプログラム オープンデータの活用	表計算ソフトウェアを使って欠損値を補完することができる。(b) 表計算ソフトウェアを使って条件に従ってデータの抽出ができる。(b) ヒストグラムや箱ひげ図によるデータの分析方法について理解している。(a) 回帰分析や相関係数について説明することができる。(b) 簡単な確定的モデルのモデル化やシミュレーションの手順を理解している。(a) 二分探索のアルゴリズムを理解している。(a) 選択法による整列のアルゴリズムを理解している。(a) Webから入手したオープンデータを正しく加工することができる。(b)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
情報・情報 I	2 年	2	高校情報 I Python (実教出版)	高校情報 I Python 学習ノート (実教出版) 他
科目の概要と目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質能力を育成する。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	情報と情報技術についての知識と技能、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法についての知識と技能を身に付けるとともに、情報社会と人との関わりについては、情報に関する法規や制度及びマナー、個人が果たす役割や責任等について、情報と情報技術の理解と併せて身に付ける。	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、さまざまな事象を情報とその結び付きの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力を養うとともに、問題を発見・解決する各段階で情報と情報技術を活用する過程を振り返り改善することで、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。	情報と情報技術を適切に活用することを通して、法規や制度及びマナーを守ろうとする態度、情報セキュリティを確保しようとする態度などの情報モラルを養い、これらを踏まえて情報と情報技術を活用することで情報社会に主体的に参画する態度を養う。
主な評価方法	定期考査 実習レポート 小テスト	定期考査 実験レポート 提出課題	提出課題

学期	単 元	学 習 内 容 及 び 評 価 基 準
1	情報と情報社会	表現メディア、伝達メディア、記録メディアの特性を理解している。(a)
	問題解決の考え方	問題や問題解決の意味、問題解決の基本的な手順について理解している。(a)
	法規による安全対策	不正アクセス禁止法や個人情報保護法などの法規について理解している。(a)
	個人情報とその扱い 知的財産権の概要と産業財産権 著作権	オプトイン、オプトアウトについて説明することができる。(b) 著作権と産業財産権における権利の取得の違いを説明できる。(b) 著作物の利用に関し、著作権を侵害しないように取り組んでいる。(c)
	コミュニケーションとメディア	誤解を招く表現の他の例をあげて説明することができる。(b)
	情報デザインと表現の工夫 Web ページと情報デザイン	情報デザインの意味について理解している。(a) 意図したデザインにするためのHTMLタグやCSSセレクタを適切に選択できる。(a)
	アルゴリズムとプログラミング プログラミングの基本	構文エラー、実行時エラー、論理エラーの違いについて説明することができる。(b) プログラムにおける変数の役割について理解している。(a)
2	デジタル情報の特徴 数値と文字の表現	表現できる情報の数およびその単位について理解している。(a) 2進数、10進数、16進数をそれぞれ相互に変換する方法を理解している。(a)
	演算の仕組み 音の表現	組み合わせ回路の真理値表を適切に表現できる。(b) 標準化周期や標準化周波数を音質とデータ量に関連付けて説明することができる。(b)
	画像の表現 コンピュータの構成と動作 コンピュータの性能	加法混色、減法混色、解像度、階調について理解している。(a) CPUの動作と演算の仕組みについて理解している。(a)
	ネットワークとプロトコル インターネットの仕組み Web ページの閲覧とメールの送受信	2進数による小数の表現によって誤差が生じることを理解している。(a) クライアントとサーバの関係を理解している。(a) ルータの役割について理解し、説明することができる。(b)

	情報システム 情報システムを支えるデータベース データベースの仕組み 個人による安全対策 安全のための情報技術 配列 関数	電子メールの仕組みについて、データの流れを追いながら説明できる。(a) 身の回りの情報システムについて簡単にその機能を説明することができる。(a) オープンデータをダウンロードして分析する実習に意欲的に取り組んでいる。(c) 結合、選択、射影を理解している。(a) コンピュータウイルスに感染した時の適切な対処法を判断できる。(b) パリティビットに1または0のどちらの値を設定したらよいかを判断できる。(b) 複数の添字を使って多重ループによる処理を正しく理解している。(a) 関数の定義と呼び出す方法について理解している。(a)
3	データの収集と整理 ソフトウェアを利用したデータの処理 統計量とデータの尺度 時系列分析と回帰分析 モデル化とシミュレーション 探索のプログラム 整列のプログラム オープンデータの活用	表計算ソフトウェアを使って欠損値を補完することができる。(b) 表計算ソフトウェアを使って条件に従ってデータの抽出ができる。(b) ヒストグラムや箱ひげ図によるデータの分析方法について理解している。(a) 回帰分析や相関係数について説明することができる。(b) 簡単な確定的モデルのモデル化やシミュレーションの手順を理解している。(a) 二分探索のアルゴリズムを理解している。(a) 選択法による整列のアルゴリズムを理解している。(a) Webから入手したオープンデータを正しく加工することができる。(b)